

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	2018年6月29日まで（2015年1月9日設定）
運用方針	<p>主として日本を含む世界の優良金融機関が発行する劣後債および優先証券等に投資を行います。</p> <p>※優良金融機関とは事業内容、財務の健全性、資本の多さ等の観点で、相対的に優良であると運用委託先が判断した金融機関をいいます。</p> <p>※劣後債、優先証券とは債券と株式の両方の特性を有しており、上場または非上場となっています。劣後債、優先証券（以下、「ハイブリッド証券」という場合があります。）は一般に利息（配当）が定められており、満期時や繰上償還時に額面で償還される等、債券に似た性質を有しています。同一発行体が発行している普通社債とハイブリッド証券を比べると、ハイブリッド証券の方が普通社債よりも利回りが高く、また期待リターンも高くなります。その一方で、リスクは普通社債に比べてハイブリッド証券の方が高くなり、また弁済順位は普通社債に比べて低いという特徴もあります。また一部のハイブリッド証券については発行体の判断や財務状況等の要因により株式に転換される場合もあります。</p> <p>主として信託期間内に償還またはコール可能日を迎える銘柄に投資を行います。ただし、償還またはコール可能日が信託期間を超える銘柄にも一部投資を行うことがあります。また、信託期間内に組入債券が償還した場合等、劣後債および優先証券のほか、普通社債や国債等に再投資することがあります。そのため、劣後債および優先証券の組入比率が低下することがあります。</p> <p>債券等の運用にあたっては、AMPキャピタル・インベスターズ・リミテッドに運用指図に関する権限を委託します。</p> <p>組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減をはかります。</p>
主要運用対象	日本を含む世界の優良金融機関が発行する劣後債および優先証券等を主要投資対象とします。
主な組入制限	外貨建資産への投資割合に制限を設けません。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。
 ※公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」の適用対象です。
 詳しくは販売会社にお問い合わせください。

運用報告書（全体版）

三菱UFJ 世界金融 ハイインカム証券ファンド2015-01 （円ヘッジ）（限定追加型）

第1期（決算日：2016年6月29日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
 さて、お手持ちの「三菱UFJ 世界金融ハイインカム証券ファンド2015-01（円ヘッジ）（限定追加型）」は、去る6月29日に第1期の決算を行いました。ここに謹んで運用状況をご報告申し上げます。
 今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

三菱UFJ投信株式会社は2015年7月1日に国際投信投資顧問株式会社と合併し、「三菱UFJ国際投信株式会社」となりました。



三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
 URL:<http://www.am.mufg.jp/>

本資料の記載内容に関するお問い合わせ先

お客さま専用フリーダイヤル TEL. 0120-151034

(9:00~17:00、土・日・祝日・12月31日~1月3日を除く)
 お客さまのお取引内容につきましては、お取り扱いの販売会社にお尋ねください。

◆目次

三菱UFJ 世界金融ハイインカム証券ファンド2015-01 (円ヘッジ) (限定追加型)のご報告

◇設定以来の運用実績	1
◇当期中の基準価額と市況等の推移	2
◇運用経過	3
◇今後の運用方針	7
◇1万口当たりの費用明細	8
◇売買及び取引の状況	9
◇利害関係人との取引状況等	9
◇組入資産の明細	10
◇投資信託財産の構成	12
◇資産、負債、元本及び基準価額の状況	13
◇損益の状況	13
◇お知らせ	14

本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

○設定以来の運用実績

決算期	基準 (分配落)	価額			債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	純 資 産 総 額
		税 分	込 配	み 金 騰 落 中 率			
(設定日)	円		円	%	%		百万円
2015年1月9日	10,000		—	—	—	—	4,123
1期(2016年6月29日)	10,115		0	1.2	87.9	—	4,524

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 当ファンドは、日本を含む世界の優良金融機関が発行する劣後債および優先証券等を主要投資対象とし、主として利子収益の確保をめざしますが、特定の指数を上回るまたは連動をめざした運用を行っていないため、また、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年	月	日	基 準 価 額	騰 落 率		債 組 入 比	券 率	債 先 物 比	券 率
				騰	落				
		(設定日)	円		%		%		%
		2015年1月9日	10,000		—		—		—
		1月末	10,031		0.3		94.4		—
		2月末	10,141		1.4		95.4		—
		3月末	10,174		1.7		94.5		—
		4月末	10,236		2.4		95.0		—
		5月末	10,229		2.3		95.1		—
		6月末	10,122		1.2		94.7		—
		7月末	10,182		1.8		95.2		—
		8月末	10,155		1.6		92.9		—
		9月末	10,140		1.4		91.4		—
		10月末	10,193		1.9		93.2		—
		11月末	10,214		2.1		93.3		—
		12月末	10,176		1.8		91.2		—
		2016年1月末	10,125		1.3		97.1		—
		2月末	9,956		△0.4		91.1		—
		3月末	10,072		0.7		91.8		—
		4月末	10,116		1.2		93.2		—
		5月末	10,189		1.9		92.1		—
		(期 末)							
		2016年6月29日	10,115		1.2		87.9		—

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 騰落率は設定日比。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

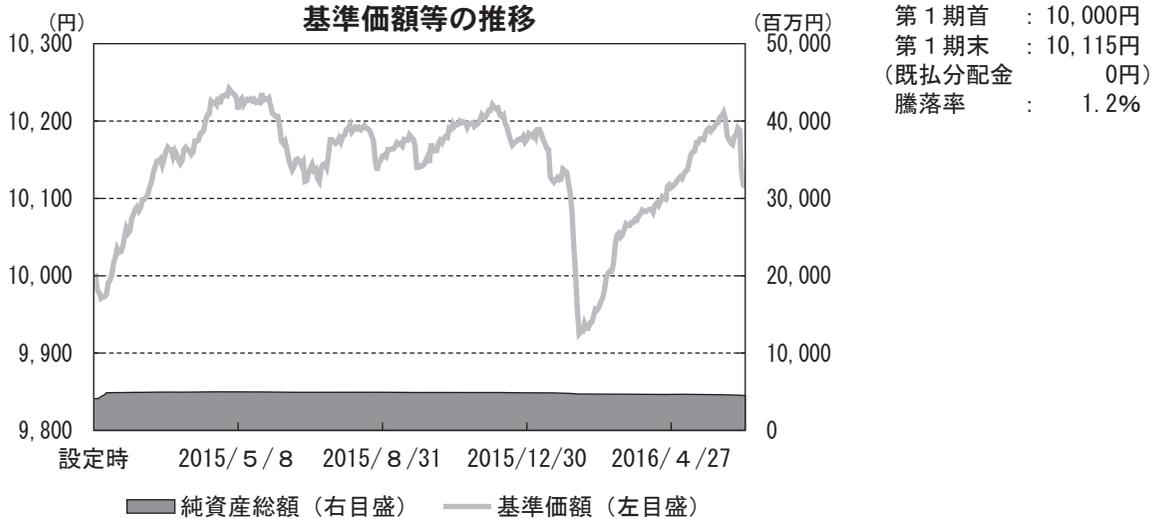
運用経過

当期中の基準価額等の推移について

(第1期：2015/1/9～2016/6/29)

基準価額の動き

基準価額は設定時に比べ1.2%の上昇となりました。



基準価額の主な変動要因

上昇要因

債券利子収入を享受したことによりグローバル金融機関ハイブリッド証券（劣後債および優先証券等）市況が上昇したことなどが基準価額の上昇要因となりました。

投資環境について

債券市況の推移
(設定時を100として指数化)

(注) バークレイズ・グローバル・キャピタル・セキュリティズ・バンキング指数とは、バークレイズ社が算出するグローバルベースのハイブリッド証券のうち、銀行セクターが発行する証券の値動きを示す代表的な指数です。

(第1期：2015/1/9～2016/6/29)

◎債券市況

- ・当期のグローバル金融機関ハイブリッド証券市況は、上昇しました。
- ・設定時から2015年12月末にかけては、米国の利上げ見通しなどを巡り、欧米金利がもみ合う展開となり、グローバル金融機関ハイブリッド証券市況はレンジ内での推移となりました。
- ・12月末から期末にかけては、欧州金融機関の業績懸念などを背景にスプレッド（利回り格差）が拡大したことはマイナスとなったものの、欧米金利が低下したことなどがプラスとなり、グローバル金融機関ハイブリッド証券市況は上昇しました。

当該投資信託のポートフォリオについて

- ・当ファンドは、日本を含む世界の優良金融機関が発行するハイブリッド証券（劣後債および優先証券等）等を主要投資対象とし、為替ヘッジを行うことで為替変動リスクの低減を図る運用を行いました。高水準の為替ヘッジを行ったため、為替市況の変動が基準価額に与える影響は限定的となりました。
- ・バイ・アンド・ホールド戦略を基本に運用を行った結果、債券利子収入を享受したことによりグローバル金融機関ハイブリッド証券市況が上昇したことなどがプラスとなり、基準価額は設定時に比べ上昇しました。
- ・期末現在、債券の組入比率は87.9%であり、劣後債および優先証券のほか、普通社債も一部保有しています。

(ご参考)

債券の格付分布

期末 (2016年6月29日)

格付種類	比率	銘柄数
AAA格	0.0%	0
AA格	6.7%	3
A格	23.1%	7
BBB格	45.1%	14
BB格以下	12.9%	4
無格付	0.0%	0

- ・比率は純資産総額に対する割合です。
- ・格付の振分基準は、以下の通りです。
- ・AAA格 (AAA、Aaa)
- ・AA格 (AA+、AA、AA-、Aa1、Aa2、Aa3)
- ・A格 (A+、A、A-、A1、A2、A3)
- ・BBB格 (BBB+、BBB、BBB-、Baa1、Baa2、Baa3)
- ・BB格 (BB+、BB、BB-、Ba1、Ba2、Ba3)
- ・原則として、個別銘柄格付を採用しておりますが、例外的に国債、地方債ならびに政府保証のある債券などについては、弊社の分類基準に基づいて、ソブリン格付 (国の発行体格付) を採用しているものがあります。
- ・格付の表示にあたっては、S & P社、Moody's社、フィッチ・レーティングス社のうち最も高い格付を表示しています。

種別構成、業種別組入比率、利回り・デュレーション (平均回収期間や金利感応度) については、2016年5月末のデータを記載しています。

(ご参考)

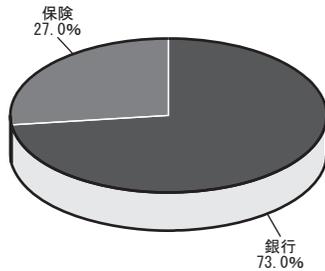
種別構成

2016年5月末

	比率
優先証券	62.1%
期限付劣後債	20.9%
永久劣後債	8.8%
その他	8.2%

- ・比率は現物債券等評価額に対する割合です。
- ・種別構成は、AMPキャピタル・インベスターズ・リミテッドが独自に分類したものです。
- ・その他は、普通社債や国債等の債券です。

(ご参考)
業種別組入比率
2016年5月末



- ・比率は現物債券等評価額に対する割合です。
- ・業種分類は、Bloomberg Industry Groupで分類しています。一部、AMPキャピタル・インベスターズ・リミテッドが独自に分類したものを含みます。

(ご参考)
利回り・デュレーション
2016年5月末

最終利回り	3.7%
直接利回り	6.0%
デュレーション	1.6年

- ・数値は、債券現物部分についてAMPキャピタル・インベスターズ・リミテッドが計算しています。
- ・最終利回りとは、個別債券ごとの複利利回りを加重平均したものです。
- ・最終利回り、デュレーションは個別債券ごとに、繰上償還条項が付与されている銘柄は原則として直近の繰上償還可能日、または償還日を使用して計算していますが、一部の銘柄については運用委託先が想定する繰上償還日を使用して計算している場合があります。
- ・直接利回りとは、個別債券等についての表面利率を加重平均したものです。
- ・利回りは、計算日時点の評価に基づくものであり、売却や償還による差損益等を考慮した後のファンドの「期待利回り」を示すものではありません。
- ・デュレーションは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。

当該投資信託のベンチマークとの差異について

- ・当ファンドは、日本を含む世界の優良金融機関が発行する劣後債および優先証券等を主要投資対象とし、主として利子収益の確保をめざしますが、特定の指数を上回るまたは連動をめざした運用を行っていないため、また、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。
- ・従って、ベンチマークおよび参考指数との対比は表記できません。

分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

【分配原資の内訳】 (単位：円、1万口当たり、税込み)

項目	第1期
	2015年1月9日～2016年6月29日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	559

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

◎運用環境の見直し

・グローバル金融機関ハイブリッド証券市場については、バーゼルⅢ（金融機関の自己資本の「質」と「量」の強化を目的とした新たな自己資本比率規制）の導入によって、自己資本を強化する動きが金融機関の財務健全性の向上につながり、クレジットスプレッド（信用力格差による国債に対する上乗せ金利）の縮小に寄与することが見込まれます。資本算入要件を充たさなくなったハイブリッド証券については、繰上償還されやすい状況にあります。繰上償還を見送ることが、市場の期待に背くというレピュテーション（風評）リスクにつながりかねないため、これを避けようとする発行体側の事情も、引き続き繰上償還を促す要因になっていると考えます。

◎今後の運用方針

・当ファンドは、発行体のファンダメンタルズに照らして相対的にクレジットスプレッドが厚く、投資妙味があると見られる証券を主な投資対象としています。繰上償還条項の付いた銘柄であっても、当該証券の発行条件や発行体の置かれる資金調達環境に応じた経済合理性の観点から、繰上償還が見送られる場合があります。しかしながら、当ファンドでは、繰上償還の実績や監督当局の規制動向などの要因により発行体が繰上償還を実施する可能性が高まっていると考えられ、想定通りの期日に償還された場合の利回りが比較的高くなるのが期待され魅力的と判断される銘柄への選択的な投資を行っています。

・今後については主に信託期間内に償還または繰上償還可能日を迎える銘柄に投資を行い、原則として償還まで保有する現状のバイ・アンド・ホールド戦略を基本として、信託期間終了まで安定的な収益の確保をめざす方針です。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2015年1月9日～2016年6月29日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
	円	%	
(a) 信 託 報 酬	187	1.847	(a) 信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率× (期中の日数÷年間日数)
(投 信 会 社)	(102)	(1.003)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(81)	(0.796)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(5)	(0.048)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	3	0.032	(b) その他費用=期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(3)	(0.026)	有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
(監 査 費 用)	(1)	(0.006)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
(そ の 他)	(0)	(0.001)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	190	1.879	
期中の平均基準価額は、10,144円です。			

(注) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2015年1月9日～2016年6月29日)

公社債

		買付額	売付額
外 国	アメリカ	千アメリカドル 31,809	千アメリカドル 7,564
	ユーロ	千ユーロ	千ユーロ
	イタリア	社債券 1,358	—
	フランス	社債券 1,723	—
	アメリカ	社債券 1,269	1,163
	イギリス	社債券 1,739	107
	スイス	社債券 1,416	—
	デンマーク	社債券 1,153	—
	イギリス	千イギリスポンド 8,283	千イギリスポンド 1,188 (900)

(注) 金額は受渡代金。(経過利子分は含まれておりません。)

(注) ()内は償還等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

(注) 社債券には新株予約権付社債(転換社債)は含まれておりません。

○利害関係人との取引状況等

(2015年1月9日～2016年6月29日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B		売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	
			$\frac{B}{A}$			$\frac{D}{C}$
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%
為替先物取引	102,952	36,216	35.2	107,692	36,593	34.0
為替直物取引	5,901	722	12.2	1,289	292	22.7

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱東京UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

○組入資産の明細

(2016年6月29日現在)

外国公社債

(A)外国(外貨建)公社債 種類別開示

区 分	当 期 末							
	額面金額	評 価 額		組入比率	うちBB格以下 組入比率	残存期間別組入比率		
		外貨建金額	邦貨換算金額			5年以上	2年以上	2年未満
アメリカ	千アメリカドル 22,487	千アメリカドル 23,098	千円 2,366,433	% 52.3	% 3.6	% 43.8	% —	% 8.5
ユーロ	千ユーロ	千ユーロ						
イタリア	1,200	1,300	147,318	3.3	3.3	3.3	—	—
フランス	1,600	1,692	191,772	4.2	—	4.2	—	—
イギリス	1,550	1,519	172,072	3.8	3.8	3.8	—	—
スイス	1,300	1,407	159,450	3.5	—	3.5	—	—
デンマーク	1,100	1,126	127,599	2.8	—	2.8	—	—
イギリス	千イギリスポンド 5,733	千イギリスポンド 5,953	811,023	17.9	2.3	17.9	—	—
合 計	—	—	3,975,670	87.9	12.9	79.4	—	8.5

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(B) 外国(外貨建)公社債 銘柄別開示

銘柄	当期末					
	利率	額面金額	評価額		償還年月日	
			外貨建金額	邦貨換算金額		
アメリカ	%	千アメリカドル	千アメリカドル	千円		
社債券	1.4	1,400	1,406	144,101	2017/9/8	
	1.55	800	802	82,172	2017/8/14	
	2.0	909	917	94,021	2017/8/14	
	5.5	1,600	1,639	167,985	2049/11/28	
	5.75	600	626	64,154	2017/6/15	
	8.25	1,600	1,693	173,543	2049/4/29	
	6.463	1,674	1,740	178,361	2049/12/29	
	10.0	1,354	1,482	151,895	2049/4/29	
	6.797	1,750	1,804	184,866	2049/6/29	
	7.64	1,700	1,589	162,844	2049/3/29	
	5.922	1,150	1,165	119,388	2049/4/29	
	7.98	1,950	2,030	208,018	2049/3/29	
	3.45	1,800	1,832	187,699	2022/8/8	
	8.25	1,600	1,735	177,849	2049/1/29	
	4.125	1,800	1,825	187,056	2023/11/21	
	6.375	800	805	82,475	2023/5/2	
小計				2,366,433		
ユーロ		千ユーロ	千ユーロ			
イタリア 社債券	8.047	1,200	1,300	147,318	2049/6/29	
フランス 社債券	6.211	850	902	102,220	2049/10/29	
	6.117	750	790	89,552	2049/10/29	
イギリス 社債券	7.0916	1,550	1,519	172,072	2049/10/29	
スイス 社債券	7.152	1,300	1,407	159,450	2049/12/29	
デンマーク 社債券	4.878	1,100	1,126	127,599	2049/5/29	
小計				798,212		
イギリス		千イギリスポンド	千イギリスポンド			
社債券	6.75	1,050	1,093	149,010	2023/1/16	
	5.375	983	1,013	138,058	2021/9/29	
	6.875	650	697	95,009	2023/5/29	
	8.875	700	754	102,804	2049/6/29	
	6.461	1,050	1,074	146,392	2049/11/29	
	5.62	1,300	1,319	179,749	2049/9/29	
小計				811,023		
合計				3,975,670		

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 上記のうち、償還年月日が2049年とあるのは、永久債(繰上償還条項付き)です。

○投資信託財産の構成

(2016年6月29日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公社債	千円 3,975,670	% 86.5
コール・ローン等、その他	620,440	13.5
投資信託財産総額	4,596,110	100.0

(注) 期末における外貨建純資産 (4,032,208千円) の投資信託財産総額 (4,596,110千円) に対する比率は87.7%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは以下の通りです。

1 アメリカドル=102.45円	1 ユーロ=113.28円	1 イギリスポンド=136.22円	
------------------	---------------	-------------------	--

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2016年6月29日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	8,609,988,755
コール・ローン等	356,849,505
公社債(評価額)	3,975,670,200
未収入金	4,221,157,063
未収利息	48,343,630
前払費用	7,968,357
(B) 負債	4,085,162,731
未払金	4,019,346,561
未払解約金	6,826,657
未払信託報酬	58,806,540
未払利息	595
その他未払費用	182,378
(C) 純資産総額(A-B)	4,524,826,024
元本	4,473,493,409
次期繰越損益金	51,332,615
(D) 受益権総口数	4,473,493,409口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,115円

○損益の状況 (2015年1月9日～2016年6月29日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	341,241,264
受取利息	341,264,858
支払利息	△ 23,594
(B) 有価証券売買損益	△ 197,341,879
売買益	1,614,415,724
売買損	△1,811,757,603
(C) 信託報酬等	△ 90,805,339
(D) 当期損益金(A+B+C)	53,094,046
(E) 追加信託差損益金	△ 1,761,431
(配当等相当額)	(48,856)
(売買損益相当額)	(△ 1,810,287)
(F) 計(D+E)	51,332,615
(G) 収益分配金	0
次期繰越損益金(F+G)	51,332,615
追加信託差損益金	△ 1,761,431
(配当等相当額)	(48,856)
(売買損益相当額)	(△ 1,810,287)
分準備積立金	250,435,925
繰越損益金	△ 197,341,879

<注記事項>

- ①設定元本額 4,123,367,168円
 期中追加設定元本額 762,912,444円
 期中一部解約元本額 412,786,203円
 また、1口当たり純資産額は、期末1.0115円です。

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
 (注) (E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

②分配金の計算過程

項 目	2015年1月9日～ 2016年6月29日
費用控除後の配当等収益額	250,435,925円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	－円
収益調整金額	48,856円
分準備積立金額	－円
当ファンドの分配対象収益額	250,484,781円
1万口当たり収益分配対象額	559円
1万口当たり分配金額	－円
収益分配金金額	－円

- ③信託財産の運用の指図に係る権限の全部または一部を委託するために要する費用として、信託財産の純資産総額に対し年10,000分の30以内の率を乗じて得た額を委託者報酬の中から支弁しております。

*三菱UFJ国際投信では本資料のほかに当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ (<http://www.am.mufg.jp/>) をご覧ください。

[お 知 ら せ]

- ①2015年7月1日に国際投信投資顧問株式会社と合併し、商号を三菱UFJ国際投信株式会社へ変更し、信託約款に所要の変更を行いました。
(2015年7月1日)
- ②2014年1月1日から、2037年12月31日までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15%に2.1%の率を乗じた復興特別所得税が付加され、20.315% (所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5% (法人受益者は15.315%の源泉徴収が行われます。)) の税率が適用されます。